

「 学びの羅針盤※ 」

～ 学習の手引き ～

令和7年度版



※ らしんばん 羅針盤…航海する船が無事目的地にたどり着くために用いた方位磁石（コンパス）

東京都立八丈高等学校 定時制課程

目 次

巻頭言「学びの羅針盤の発刊に寄せて」	1
第1章 生徒の学ぶ意義と、主体的に学ぶ姿勢・態度	2
(1) 学ぶ意義と自ら学ぶ姿勢の大切さについて	
(2) 本校で取得できる資格・検定について	
(3) 基本的な生活習慣・心身の健康管理	
(4) 読書活動の推進	
第2章 授業について指導していること	3
(1) 授業の準備と予習	
(2) 授業規律と授業の受け方	
(3) 復習と家庭学習	
第3章 定期考査や評価、学力調査、外部模擬試験についての指導	3
(1) 定期考査、外部模試の利用について	
(2) 学習評価	
第4章 学びの羅針盤「各教科編」	5
ア 国語科	5
イ 地理歴史科・公民科	6
ウ 数学科	7
エ 理科	8
オ 英語科	9
カ 保健体育科	10
キ 芸術科 音楽	12
美術	13
書道	14
ク 情報科	15
ケ 家庭科	16
コ 農業科	17

『学びの羅針盤』の発刊に寄せて

本書『学びの羅針盤』発刊にあたり、令和6年1月1日に発生しました能登半島地震により、お亡くなりになった皆さまのご冥福を祈るとともに、被災された皆さまの一日も早い復興を願い、お見舞い申し上げます。

本書『学びの羅針盤』は、本校で学んでいく各教科・科目の学習する意義やその学び方をまとめたものです。今日、少子高齢化、就業構造の変化、グローバル化、AIやIoTによる技術革新の急速な進展による Society5.0 の到来など、国際社会を取り巻く環境は大きく変化しています。かつて、「AIが人間の仕事を奪う」という論述がありましたが、AIに淘汰されず、AIを有効活用してこれからの時代を生き抜いていくには、自ら学び課題を見つけ、考え、判断して行動する力が必要です。そのためには、主体的・対話的で深い学びや、思考力・判断力・表現力等を育むための学びが重要になります。

本校でも「主体的、対話的で深い学び」の実現を目指した学習が多く展開されています。例えば、生徒同士で意見を交換し合い、個人やグループで課題発見から解決策の提案までを行うといった探究学習など、新しい学びを通して「知識」を身につけていきます。そして、学習内容を深化させる「やり方」を工夫しながら取り組むことが大切になってきます。

また、振り返りを行う際には、私たちの学びは一度きりで完結するものではなく、繰り返しの学習を行う中で少しずつ深化し、広がっていくものです。授業で学習したことが知識のみにとどまらず、考え方や表現の仕方を自分なりの形にしていくことで学力を伸ばしていくことになります。

本校では、八高の皆さんの学習における手引書として、『学びの羅針盤』をまとめ、授業等でも活用して、生徒の皆さんがより自主的・主体的・効率的に学習が進められるようにしました。「これさえやっておけば大丈夫」という勉強の仕方はありません。保護者の皆様にも、本校の進路の手引きに当たる「キャリアコンパス～進路の道しるべ～」及び生活の手引きに当たる「生徒便覧」と合わせて、ぜひ、ご覧いただき、ご家庭での学習面や進路面、生活面についての会話や相談にお役立ていただきたいと思います。

多くの学習方法の工夫や学び方を参考に、一つのやり方に固執するのではなく八高生一人一人が自分に合ったやり方を見つけていく姿勢を身につけ、オリジナルな学習法を確立して、各自の進路希望の実現を高いレベルで叶えてほしいと切に願っています。

令和7年4月1日

東京都立八丈高等学校長
東 達 康

第1章 生徒の学ぶ意義と、主体的に学ぶ姿勢・態度

(1) 学ぶ意義と自ら学ぶ姿勢の大切さについて

八丈高校定時制課程（以下、定時制）では、様々な教育活動を行う上で最も大切にしている考えがあります。その考えは下記の文章にはっきりと表れています。

八丈高校定時制課程では「じっくり、ゆっくり、わかるまで」を心がけ、日々の学習に取り組んでいます。どの科目もその人にあったペースで学べるよう、基礎・基本を大切にしています。すべての教員が、すべての生徒の授業を担当しますので、とてもアットホームな雰囲気の中で学校生活を送ることができます。

(八丈高校定時制課程 生徒募集資料より)

基礎・基本から「じっくり、ゆっくり、わかるまで」取り組むことにより、自ら学び理解する喜びを味わってもらいたいというのが、すべての定時制教員の願いです。定時制ではすべての教員がすべての生徒の授業を担当します。そのため教員と生徒の距離が近く、授業中も余談や雑談を交えながら、リラックスした空気の中で学習することができます。高校で身に付けた知識・技能・能力を十分に生かして、卒業後も充実した生活が送れるよう、一つ一つの授業に積極的に取り組むよう心がけましょう。

(2) 本校で取得できる資格・検定について

四年制大学や短期大学、専門学校への推薦入試では、多くの学校が所有する資格・検定について評価材料としています。また就職試験や公務員の選考でも、資格・検定は得意分野をアピールする材料となります。

各資格・検定によって申込や受検方法はさまざまです。島外でなければ受けられない資格・検定もありますので、受検会場等についても実施団体のHP等で事前に確認し、すべての手続は自分自身で行ってください。学校が代行することはできません。また島外での受講・受検にかかる交通費や宿泊費その他の費用はすべて自己負担となります。保護者とよく相談して決めてください。出願や申込の方法など、詳しく知りたい人は教務部の先生に申し出てください。

(3) 基本的生活習慣・心身の健康管理

規則正しい生活習慣を身に付けることは、学習面だけでなく健康的な生活を送るためにも非常に重要です。ゲームやSNSに夢中になって寝不足のまま一日がスタートしてしまうと、その日一日の生活に影響が出てきます。アルバイトや学校への遅刻があたりまえになると、よほど努力をしない限り、自分の生活を整えていくことは困難です。また、社会に出てから遅刻や欠席を繰り返すと、社会的信用を損ねた結果、職を失ってしまいます。

定時制には就労している生徒が多くいるため、体調がすぐれないときは無理せず自宅で静養するよう勧めるときがあります。ただし、授業の欠時数が規定回数を超過してしまうと、原則として進級・卒業は認められなくなります。

そうならないためにも、規則正しい生活を心がけ、体調を整えておきましょう。

(4) 読書活動の推進

本校の図書館には2万冊を超える蔵書があります。SDGs関連や進路関係の書籍なども非常に充実しています。購入を希望する書籍のリクエストも可能です。できるだけみなさんの希望に添えるよう配慮していますので、ぜひ活用してください。

今年度は週4回（月曜・火曜・水曜・金曜）、定時制時間帯の午後5時から午後7時30分までの2時間半、図書館専門員が勤務しています。

本の貸出返却の手続きだけでなく、読書に関して気になることがあれば気軽に質問してください。今後もみなさんの知識の源泉として役立つよう図書館を整備していきたいと考えています。

第2章 授業について指導していること

(1) 授業の準備と予習

日中アルバイトをしている生徒や一人暮らしをしている生徒にとって、予習の時間を作ることはなかなか難しいことです。しかし、進学希望の人や、より深く学びたいと考えている人は、できるだけ授業以外の勉強時間を作りましょう。学校やアルバイトに行く前や就寝前のわずかな時間でも、予習の習慣が定着すれば、学習への意欲と理解はいっそう深まります。少しずつでも良いので予習の時間を作るようにしましょう。

(2) 授業規律と授業の受け方

茶道には「一期一会」ということばがあります。「茶をふるまう相手に対しては、この出会いを一生に一度の機会と心得て、茶を点（た）てよ」という心構えを述べたものです。同じことは勉強にもあてはまります。

進学する人は別として、卒業後、高校時代のように勉強に時間をかけることはできないと思います。後になって「あの時、もっとしっかり学んでおけばよかった」と後悔することのないよう、どの授業も一度きりの機会と考えて真剣に向き合しましょう。

授業中は、スマートフォンやゲーム機など必要ないものは机に出さない、教科書・プリント類や筆記用具などを忘れない、授業と無関係の私語を慎むなど、最低限のルールをわきまえて授業に臨みましょう。

(3) 復習と家庭学習

復習には、学習内容をより深く理解するだけでなく、次の学習への意欲を高める効果もあります。予習同様、短時間でもよいので習慣づけるようにしましょう。

第3章 振り返り週間と評価、学力調査、外部模擬試験についての指導

(1) 振り返り週間、外部模試の利用について

「定時制課程」では令和2年度より振り返り週間を設けました。これは考査のための期間を設定しないという意味であり、考査そのものを廃止したわけではありません。振り返り週間の授業については、次の(2)で説明します。

定時制では、卒業後に多様な進路選択が可能となるよう進路指導に力を入れています。卒業生の多くは就職を選択しますが、過去 10 年間では四年制大学と専門学校に複数の生徒が進学しています。進学に向けての外部模擬試験の活用、授業前や放課後の講習など、生徒の進路実現に向けて支援を行っています。

(2) 学習評価

振り返り週間では、国語・地歴公民・数学・理科・保健体育・英語等について、一人一人の学習の取組状況を振り返り、成果や課題の確認を行います。学習評価の判断基準になるものは、単元終了後の確認テストや課題テスト、小テスト等の結果、提出物や出席の状況のほかに、振り返り授業の時間に先生と一対一の面談により理解度を確認するパフォーマンス評価など、それぞれの教科・科目の特性に応じた評価方法を取り入れています。評価については、**第4章「学びの羅針盤 各教科編」**の中で詳しく説明しているので、必ず確認してください。

みなさん一人一人の個性を伸ばしつつ、実社会で求められる「知識・技能」等の力が身に付くように、様々な材料に基づく評価が行われていることを理解してください。

第4章 学びの羅針盤「各教科編」

ア 国語科

○教科の目標

【知識及び技能】

- ・社会生活で必要とされる国語能力の特質を理解し、卒業後も適切に使うことができるようにする。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・社会生活における他者との関わりの中で、相互に伝え合う力を高め、思考力や判断力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・言語に対する感覚を養い、生涯にわたって国語を尊重し、国語力を高めようとする態度を身につける。

○評価の観点

【知識・技能】

- ・文章理解に必要な語彙力や表現技法、国語常識等を理解している。
- ・言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。

【思考・判断・表現】

- ・論理的に文章を読解し、筆者の主張を正確に理解している。
- ・作品の読解をとおして、さまざまな価値観があることを理解している。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・遅刻と欠席がなく授業に毎回出席する。
- ・課題等に自発的に取り組み、積極的に発表したり、質問したりすることで理解を深めようとする。

○授業に臨む姿勢

「聞く＝（聞くつもりはなくても）自然と耳に入る」ではなく、

「**聴く＝耳をかたむけてきく、注意してきく**」という姿勢で授業へ参加しましょう。

黒板に示されたことをただ書き写すだけでなく、先生が口頭で説明したことや他の人の意見などもメモをするようにしましょう。また、課題へは間違いを恐れずにチャレンジしましょう

○大学受験対策

<総合型選抜（推薦）等>

志望校によりますが、志望理由や入学後のビジョン・将来について記入したり話し

たりしなければならない場面は必ずあります。自分の思いを正確に伝えるために、基本的な「書く能力」「話す能力」については最低限身につけるべきです。授業内で学習する基本的な漢字・語句、敬語、作文の書き方等は入試だけでなく、社会に出てからも必要です。

<一般入試>

まずは、模擬試験を受けて、現時点の自身の学力を正確に把握し、志望校が必要とする学力との間にどれだけの差があるのか把握しましょう。入試科目に古文・漢文が必要な学校と、現代文のみが出題される学校がありますので、志望校に必要な学校に必要に応じた対策が必要です。一般受験を決意した時点で早めに担当教員に相談してください。

イ 地理歴史科・公民科

○教科の目標

【知識及び技能】

- ・国際理解や国際協力の知識を身に着け、公正に判断する基礎知識を養う。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・歴史、政治、経済、国際関係などについて客観的に理解するとともに、新聞やニュースなどを興味・関心を持ち、公正に判断することができる能力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・何事にも問題意識を持ち、多面的・多角的視点から考察できる力、一人でわからないことは周囲の仲間と協力し、問題解決できる力を養う。

○評価の観点

【知識・技能】

- ・物事に興味・関心を持ち、知識を身に着ける。

【思考・判断・表現】

- ・公正な観点から物事を判断し、理解することができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・積極的に質問・発表をすることができる。
- ・遅刻・欠席が少なく、礼儀をもって学習に取り組むことができる。

○授業に臨む姿勢

生徒のみなさんに一番習得してもらいたいスキルは、我々が生きている現代世界の様々なことに興味を持ち、理解するように努めることです。簡単に言うと、「日々の生活に興味を持つ」ということです。身近に起こっていること、世界で起こっていることに関係なく、すべてのことに「なぜ？」と興味を持つことで、我々が生きている現代世界をより理解することにつながります。

○大学受験対策

社会については大学・学部・学科によって、必要になる受験科目が多種多様です。まずは志望校を決定し、受験科目を調べてみましょう。

受験対策は授業だけでなく、家庭学習や学校での補習が必要になってきます。受験を考えている生徒のみなさんは、早めに先生に相談して、アドバイスをもらいましょう。

ウ 数学科

○教科の目標

【知識及び技能】

- ・ 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学的に表現・処理する技能を身に付ける。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・ 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・ 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を身に付ける。

○評価の観点

【知識・技能】

- ・ 数学の各分野に関する基本的な理解と、それを活用して問題を解くことができる。

【思考・判断・表現】

- ・ 公式や定理を単に暗記するのではなく、それらがどのように導かれるのかを理解して使う。
- ・ 与えられた問題に対して、どの数学的手法や解法を選ぶべきか判断できる。
- ・ 記号や用語を正確に使い表現することができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・ 遅刻と欠席がなく授業に毎回出席する。
- ・ わからない部分を放置せず積極的に調べ、質問することで理解を深めようとする。

○授業に臨む姿勢

授業を受ける際には、ただ聞くだけではなく積極的に参加することが大切です。分からない事があればその場で質問しましょう。「後で分かるだろう」と後回しにすると理解が曖昧なまま進んでしまうことが多いので、疑問に思ったらその場で解決する習慣をつけましょう。

○大学受験対策

最も重要なのは、基礎をしっかりと固めることです。数学は積み重ねの科目なので、基礎ができていないと応用問題が解けません。教科書の例題をしっかりと理解して解き直し、参考書で同じような問題を解くことをお勧めします。基礎的な問題を繰り返し解くことで確実に力がつきます。また数学の公式や定理を暗記するだけでなく、その意味や使

い方もしっかり理解することが大切です。公式をただ覚えるだけでなく、どうしてその公式が成り立つのかを考えることで、応用力が養われます。基礎が固まったら、問題集を使って演習を行いましょう。いろいろな種類の問題を解くことで、問題のパターンを覚えたり、解法を身につけたりできます。特に重要なのは過去問や模試の問題を解くことです。さらに一度解けなかった問題は、どこでつまずいたかを確認し、同じミスを繰り返さないようにします。自分の弱点を把握し、そこを重点的に練習しましょう。

エ 理科

○教科の目標

【知識及び技能】

- ・自然の事物・現象について理解を深め、科学的に探究するための観察、実験等に関する技能を身に付ける。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を身につける。

○評価の観点

【知識・技能】

- ・科学的事象について、理解し知識を身につけている。
- ・器具を正しく扱い、実験を行うことができる。

【思考・判断・表現】

- ・科学的事象について、理解し考え説明することができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・遅刻・欠席がなく、授業に対し積極的に参加している。
- ・課題等に自発的に取り組み、積極的に発表することができる。

○授業に臨む姿勢

理科は自然を学ぶ基礎教科であり、学ぶための方法として講義だけでなく、観察や実験などを行い、物事を科学的に見て、考える力を身に付けて欲しいと考えています。ここでいう科学的とは根拠や客観性を重視した視点を持つということです。

様々な事物・現象を得られた結果を元に考察し、自分の言葉で説明できるように主体的に学習してください。

○大学受験対策

理科については大学・学部・学科によって必要になる受験科目が多種多様です。まずは志望校を決定し、受験科目を調べましょう。本校では1年生と2年生で科学と人間生活、3年生で生物基礎、4年生で化学基礎を学ぶカリキュラムになっています。大学受験を考えている場合は早くから参考書等で勉強しましょう。

オ 英語科

○教科の目標

【知識及び技能】

- ・外国語の特徴やきまりに関する理解・音声、語彙・表現、文法の知識を身に付ける。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・外国語で、情報や考えなどを表現し伝え合う力を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。

○評価の観点

【知識・技能】

- ・外国語の4技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。

【思考・判断・表現】

- ・聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。
- ・遅刻・欠席がなく、授業に対し積極的に参加している。
- ・課題等に自発的に取り組み、積極的に発表することができる。

○授業に臨む姿勢

1 学年では、英語の基本的な単語、語順、日常表現を覚えます。初めて英語を学ぶことを前提にしています。基礎が最も難しく、何度も繰り返して覚える作業を1学期に行います。同時に日常会話で不可欠な動作や状態を表す単語を集中的に身に付けます。専門的な用語は使いません。

授業で覚えた単語や表現を会話で使えるよう発話練習を英語授業教員とALTで4年間かけて継続的に行います。自己表現できるためには日本語でも表現できるよう学校外で練習して下さい。

単語は繰り返して覚えます。授業では日常会話に不可欠な単語を何度も繰り返して練習します。

外国語としてEnglishを身に付けるためには暗記は欠かせません。繰り返し、繰り返し覚えようと努力すると、必ず覚えることができます。好きになれば必ずEnglishが振り向いてくれます。

大学受験対策

まず、中学校の教科書3年間の本文が、すべて英語で声に出して読めて、本文の意味を日本語で言えるか確認します。訳ではないので語順が違っても多少は構いません。

単語の意味は分かるが文の意味が分からないところが何なのか、先生に確認してもらいます。そのうえで、中学校3年間で学ぶべき文法問題集の基本問題を短期間に集中的に仕上げます。

次に、基礎的な英文で書かれた10行未満の様々な英文を集めた問題集で読んでいきます。英文の語順に従って理解していく読み方を身に付けます。後ろから戻って訳すことをしてはいけません。そのような読み方では、英語の力はいつまでもつきません。

さらに受験する大学で出題されたレベルの文章を集めた問題集を解いていきます。最も大切なことは、英文の問題集を**必ず繰り返し、解くことです**。4周、5周して下さい。最初は意味を日本語で書きます。いい加減な理解をしているか、正確に理解しているかチェックすることができます。音声ダウンロードできる教材が多いので、**リスニングと音読を必ず行ってください**。

単語集は最後の一年間で集中的に覚えます。それまでは英文を集めた問題集を繰り返しその英文の中に出てきた単語をすべて覚えてください。

大学によっては、語法、文法の問題を出すところがあります。問題集を受験一年前に始めてください。

カ 保健体育科

○教科の目標

運動や健康について理解するとともに、技能を身に付け課題を発見し、解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。また、生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

<保健>

- (1) 健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 健康についての課題を発見し、解決に向け思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 健康の保持増進や環境づくりを目指し、生涯を通じて豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

<体育>

- (1) 運動の楽しさを味わい、体力の必要性について理解し、技能を身に付けるようにする。
- (2) 生涯にわたって運動を継続するための課題を発見し、解決する力を培う。
- (3) 競争や協働の経験を通し、公正・協力・責任・多様性などを大切にしながら、生涯にわたって運動に親しむことができる人間性を養う。
- (4) スポーツ A・B では、対人競技で必要とされる発展的な知識・技能及びルールを理解、練習やゲームを発案・工夫し、表現することを目指し、自ら生涯スポーツの態度と意識を養う。

○評価の観点

<保健>

【知識・技能】

- ・各項目の内容について理解し活用できる。
- ・健康について知識や技能を身につけている。

【思考・判断・表現】

- ・健康について考え、説明することができる。
- ・自発的に課題等に取り組み、積極的に発表することができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・遅刻・欠席がなく、授業に対し積極的に参加している。

<体育>

【知識・技能】

- ・各種目の運動を理解し知識や技術を身につける。
- ・器具を正しく扱い、各種目の運動を行うことができる。

【思考・判断・表現】

- ・各種目の運動について、理解し考え、説明することができる。
- ・課題等に自発的に取り組み、積極的に発表することができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・遅刻・欠席がなく、授業に対し積極的に参加している。
- ・準備や片付けなど積極的に授業貢献することができる。

○授業に臨む姿勢

<保健>

保健は、1・2学年で各1単位、日々の健康課題を明らかにして、適切な意思決定・行動選択から健康の維持、増進に繋げていきましょう。また、自分の生活課題・健康課題をきちんと認識し、科学的に思考・判断し、適切に対処できる基礎を培っていきましょう。

<体育>

体育は、1・2年生で各3単位、3・4年生で必修各2単位、選択科目各2単位（スポーツA、B）を学びます。八定の体育は、学年体育・学年合同体育・全体体育があり、それぞれ違った集団の中で、知識や技能を身に付けるとともに、仲間と一緒に学び合い協力して課題を解決することや、授業内容に前向きに取り組むこと、積極的に準備・片付けに貢献することで、協調性や課題解決力、忍耐力等を高めることを「ねらい」としています。4年間の体育の授業を通して、生きることを楽しむための「人間力」を身に付けましょう。

キ 芸術科

<音楽>

○教科の目標

【知識・技能】

- ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

【思考・判断・表現】

- ・自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

○評価の観点

【知識・技能】

- ・楽曲が作曲された背景や作曲者の意図などを深く理解した上で楽曲を深く分析し、様々な音楽があることを深く理解できる。

【思考・判断・表現】

- ・自己のイメージや音楽理論をもとに、必然性がある深い音楽表現を工夫することができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・主体的・協働的に音楽の幅広い活動に継続的に取り組み、音楽を愛好し続けることができる。

○授業に臨む姿勢

主体的・対話的な深い学びを実現するために音楽の授業では次のことを特に大切にしてください。

1人で練習する時間がメインとなります。誰かに頼らずに、自分自身で練習を進められるようにしましょう。

他の人の演奏を聴く時や、教え合い活動を行う時には温かい気持ちで相手を見てあげましょう。音楽は心を育てる教科です。

音楽は学校の音楽室だけに存在しているものではありません。日頃から身の回りにあふれている音楽にも耳を傾け、音楽にひたってみてください。

<美術>

○教科の目標

【知識・技能】

- ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。

【思考・判断・表現】

- ・造形的な良さや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

○評価の観点

【知識・技能】

- ・美術作品や造形物の精神的・創造的価値を深く理解し、造形の要素の働きや特徴から抱くイメージを捉える視点を理解した上で活用できる。

【思考・判断・表現】

- ・表現の意図に応じて材料や用具の特性を十分に活かし、表現方法を創意工夫して創造的により美しく表すことができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・表現・鑑賞の資質・能力を主体的に発揮して楽しさや創造の喜びを味わい、生涯を通じて深く愛好する心情を育むことができる。

○授業に臨む姿勢

美術活動を通して、美術の特質を深く理解し、意図に基づいて表現するための資質・能力を身に付け、生涯にわたって美術を愛好する心情を育むために、そして、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造する態度を養い、豊かな情操を培うことを続けられようするために次の視点で学習してください。創造的な表現を生み出し、工夫するためには、基礎的な技法の習得と同時に自身の創造性を磨き、好奇心や探求心をもって創作活動に臨むことが大切です。芸術の自由な世界では、個性を臆せず存分に表現し、自己という人間性の輪郭を表明することが重要です。

また、美術の良さや美しさを深く味わったりすることができるようにするために、他人の作品を多く鑑賞し、他人の感性や価値観を理解し受け入れ尊重すると同時に、自身の作品も同じように尊重されるべきであるという自覚を持ち、自他共に創作活動から完成作品に至るまでのすべての芸術的な活動に深い敬意を持ち続けましょう。主体的に美術活動を行うことで学びに向かう力・人間性を身に付けていってください。

<書道>

○教科の目標

【知識・技能】

- ・書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。

【思考・判断・表現】

- ・書によさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

○評価の観点

【知識・技能】

- ・書の幅広い表現、鑑賞の活動を通し、習得されたり活用されたりする知識を深く理解出来る。
- ・書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を習得している。

【思考・判断・表現】

- ・書によさや美しさを感じ、意図に基づいて深く構想し表現を工夫する事が出来る。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・自らの感性を高め継続的に書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を積極的に創造する事が出来る。

○授業に臨む姿勢

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く深く関わる資質・能力を身に付けるために、次の視点で学習してください。文字を正しく書く書写能力を高めることも重要ですが、芸術の書道では、創造的に構想し個性豊かな書の表現力を高めることも大切です。自由に表現することを恐れず、他者の表現を理解・尊重し、お互いに認め合うことが重要です。主体的に学習することで学びに向かう力・人間性を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けてください。

ク 情報科

○教科の目標

【知識・技能】

- ・効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深める。

【思考・判断・表現】

- ・様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

○評価の観点

【知識・技能】

- ・情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身につけること。
- ・データの取扱いについて理解し技能を身につけること。

【思考・判断・表現】

- ・情報に関することについて、背景を科学的に捉え考察すること。
- ・メディアとコミュニケーション手段の関係を科学的に捉え、それらを目的や状況に応じて適切に選択すること。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・学ぶことに興味関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

○授業に臨む姿勢

生徒が自ら考え、課題に取り組むことが多くあります。積極的に課題に挑戦するようにしましょう。

演習の時間には、Office のソフトを利用し、社会に出たときに使える技術を身につけます。生徒同士で教えあう環境を作っていますので、積極的に参加してください。

プログラミングを学ぶ過程で、プログラムの構成を考えたりバグの対処などで一つのものを作り上げる構成力などをつけていきます。

ケ 家庭科

○教科の目標

【知識・技能】

- ・人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

【思考・判断・表現】

- ・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

○評価の観点

【知識・技能】

- ・人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識や技術を習得している。

【思考・判断・表現】

- ・家族や地域の生活課題を見つけ、主体的な解決を目指して思考を深め、適切に判断できる。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

○授業に臨む姿勢

(1) 主体的な学び

家庭科は生活の自立に欠かせない科目であり、実生活と学習内容と関連付けて興味関心をもつことが第一です。見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

(2) 対話的な学び

生徒同士の協働、先生との対話を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

(3) 深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

コ 農業科

○教科の目標

【知識・技能】

- ・園芸と活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考・判断・表現】

- ・園芸と活用に関する課題を発見し、園芸や関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・園芸と活用について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、園芸の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

○評価の観点

【知識・技能】

- ・園芸の現状と動向に関する基礎的な知識を身に付け、その社会的な役割について理解できる。
- ・各道具の用途を理解し、様々な場面で正しく選択し使用することができる。

【思考・判断・表現】

- ・園芸の現状と動向に関する諸課題を考察し、問題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に合理的に判断できる。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・学ぶことに興味関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学習」が実現できているか。

○授業に臨む姿勢

学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けられようするために次の視点で学習してください。また、まわりの生徒と自分を比べる必要はありません。昨日の自分自身と比較してください。前日出来なかったことができるようになっていくことが大切です。主体的に学習することで学びに向かう力・人間性を身に付けていってください。